

## 全日本実業団相撲大会

### 伊藤豊さん(つがる市消防署)が個人3位

第50回記念日本実業団相撲選手権大会が9月21日、26チーム延べ170人の選手が参加しアップルドーム(三戸町)で熱戦が繰り広げられました。青森県勢としては、つがる市消防署1チームが参加。団体2部の決勝トーナメントでは1回戦で敗退したものの、伊藤選手は団体戦で負けた悔しさをバネに奮起。

初出場にして個人戦で3位入賞を果たし、県勢として大会を沸かせました。

伊藤選手は「家族や後輩たちの応援がエネルギーになりました。職場の仲間や自分を支えてくれた人たちに感謝しています」と話していました。

伊藤選手は木造高校相撲部の出身で、日頃は後輩たちのためにけいこをつけて汗を流しています。



初出場で個人戦3位入賞を果たした伊藤豊さん



箱田さんのリンゴ園地を視察し被害状況を確認する福島市長

## ひょう害のリンゴ園地を 市長らが視察

9月26日から27日にかけての降ひょうで被害を受けた市内のリンゴ園地を9月30日、福島市長はじめ高橋議会議員、西北地域県民局農林水産部職員、農協関係者らが視察し農家を激励しました。

視察したのはリンゴの皮が裂け、ひょうの当たった個所が変色するなどの被害が大きかった柏地区2カ所、森田地区1カ所。収穫前の早生ふじやジョナゴールドに被害を受けた箱田久さん(柏桑野木田)は「こんな被害は今までに経験したことがない。手間を掛けて育てたリンゴが出荷目前に被害を受けて本当に残念」と話し、福島市長は「予想以上の被害に驚きました。県、農協などと連携し救済のための支援策を講じたい」と述べました。

市内のリンゴ被害状況は、10月6日現在で被害面積356㌔、被害額約3億7000千万円となっています。

## 亀ヶ岡石器時代遺跡を 全国に発信

世界文化遺産登録の暫定リスト入りを果たした北海道・北東北の縄文遺跡群に当市の亀ヶ岡石器時代遺跡が含まれていることから、NPO法人つがる縄文の会(理事長成田秀秋)が9月30日、同遺跡から出土した遮光器土偶のレプリカを名刺の裏に印刷した福島市長らの名刺を作製し、プレゼントしました。

市役所を訪れた成田理事長は「行政と民間団体がタイアップして盛り上げていきたい。亀ヶ岡を全国に広めてください」と福島市長に名刺を手渡し、福島市長は「市のブランド品として亀ヶ岡石器時代遺跡を大いにアピールさせていただきます」と笑顔で応えてました。



福島市長に遮光器土偶のレプリカが印刷された名刺をプレゼントする成田理事長(右)

## 新教育長に葛西嶮輔氏が就任

平成20年5月27日付で体調不良のため辞職した小林千代喜前教育長(同年6月21日死去)の後任として、新教育長に葛西嶮輔(かんすけ)氏(木造豊田)が就任しました。

葛西氏は玉川大学文学部教育学科を卒業後、五所川原市立中央小学校長、つがる市立向陽小学校長を歴任し、平成19年3月に同小学校を定年退職しました。教育長就任にあたり「行政としてどんな子どもを育てていくのか今一度勉強し、市の教育方針である“個性と郷土を大切に作る心豊かな人づくり”に取り組んでいきたい」と抱負を述べていました。

また、「地方教育行政の組織及び運営に関する法



葛西嶮輔教育長  
任期:平成20年10月1日～  
平成21年3月30日



黒滝亨教育委員  
任期:平成20年10月1日～  
平成23年3月30日

律」の一部が改正され、教育委員の1人は保護者を含めることが義務付けられたことから、黒滝亨氏(稲垣町繁田)が教育委員に任命されました。黒滝氏は青森県農業大学校卒業後、つがる市立繁田小学校PTA会長などを歴任しています。



## 成人病センターに新内科医

10月から成人病センターに内科医として工藤敏啓医師が勤務しました。工藤医師は弘前大学院を卒業後、三沢市立三沢病院や三戸中央病院などに勤務。工藤医師は「これまでは内科医しかいない病院に勤務してきました。成人病センターには外科医がいるので、うまく連携をとって患者のためにがんばりたい」と抱負を語っていました。

また、市民の皆さんには「病気の成り始めは症状が出にくいので、定期的に検査を受けるように」と呼び掛けていました。

### プロフィール

●工藤敏啓(としひろ)1974年青森生まれ。弘前市に在住し家族は妻と2人暮らし。趣味は車とバイク。

## 総務大臣表彰を受賞

### 行政相談委員 佐藤朋子さん

市民の行政に対する苦情や身近な問題を取扱い解決する行政相談委員の佐藤朋子(森田町床舞)さんが10月15日、多年にわたっての業績が認められ総務大臣表彰を受賞しました。

佐藤さんは平成7年4月に行政相談委員として委嘱を受け、旧森田村の時から委員を務めており、平成15年5月には東北管区行政評価局長表彰を受賞。今回の受賞にあたり「何もわからずゼロからのスタートで苦勞しましたが、行政、地域の方々、行政評価事務所の職員に支えられて受賞することができました。今後も皆さんのために尽くしていきたいです」と喜びと抱負を話していました。

森田地区の行政相談は毎月1回、森田公民館で行われています。



功績がたたえられ総務大臣表彰を受賞した佐藤朋子さん



## 「ほっとハウスたんぽぽ」まつり

障害者の子どもを抱える保護者の会として活動をしているたんぽぽの会（代表渋谷みち子）が9月27日、旧千年保育所でたんぽぽまつりを行い、会員や市民らでにぎわいました。たんぽぽの会は「広がる笑顔とつながる心」をモットーに平成8年9月に結成され、小規模作業所開設を目的に5家族の会員で活動しています。まつりでは、弘前大学教育学部の佐藤紘昭教授が講演し、学生ボランティアが会員らと一緒にアートフラワーの販売、バザー、ミニ音楽会などを行って交流を深めました。

## 源氏物語の世界に浸る

世代の架け橋講座

青森中央学院大学主催による人の生き方や地域の課題について大人と若者が共に学び合う世代の架け橋講座が9月27日、松の館で行われました。講座には木造高校生や市民ら約60人が参加。NHK文化センター講師の三村三千代氏が「源氏物語の人もよう」と題して、54帖から成る源氏物語のあらすじ、光源氏の誕生や苦悩、作者である紫式部などについて講演しました。参加者は「物語は一人ひとりの人間関係が描かれていてすばらしい。紫式部と清少納言のようなお互い良きライバルと良き理解者の関係を私たちも見習いたい」と感想を話していました。



## 生の吹奏楽演奏に感動

向陽小学校

子どもたちの豊かな心を育もうと向陽小学校が9月29日、青森山田中学高等学校吹奏楽部を招いて音楽鑑賞教室を行いました。児童らは木管、金管、弦楽器などが奏でる迫力ある音に感銘を受け、見たこともない楽器に興味津々でした。また、聞き覚えのあるアニメやゲームソングなどが演奏されると手拍子や口ずさむ場面も見受けられ楽しい演奏を観賞しました。

## 大量の農業用廃プラを回収

車力一般廃棄物最終処分場で10月1日、農業用廃プラスチックの回収が行われました。同処分場では車両に廃プラを積載したまま計量ができることから、計量時の積み下ろし作業が必要ありません。この日は2トン車両に農業用ビニールなどを積んだ農家が多く訪れ、約8トンの廃プラを回収しました。農業用廃プラスチックは農業者が自らの責任で適正に処理することが義務づけられています。野焼きや不法投棄は絶対に止めましょう。



## 稲わら焼却防止を決意!

稲わらの焼却防止と有効利用を促進するため稲わら焼却防止巡回出発式が10月6日、市役所前で行われました。出発式には関係者約30人が出席し、福島市長は「農産物のブランド化はクリーンなイメージが大切。稲わらは有効資源であることを市民に呼び掛けましょう」とあいさつ。また、坂本清衛つがる市稲わら有効活用推進協議会会長が「わら焼きは生産者のイメージダウンにつながります。すき込みや収集を斡旋して稲わらの焼却防止に努めます」と焼却ゼロ宣言をしました。

## 会員らが社会奉仕活動に汗流す — シルバー人材センター

シルバー人材センター事業普及啓発促進月間の一環としてつがる市シルバー人材センターの会員ら約60人が10月8日、市役所周辺の幹線道路の清掃活動を行いました。

会員らはスコップ、鎌、のこぎりなどで道路脇にたまっている土砂の除去、歩道の除草、街路樹の枝の剪定作業などを行い、環境美化に努めていました。

作業終了後の市役所周辺の道路は見晴らしも良くなり、会員らは奉仕活動の喜びを感じていました。



## 園児と児童が餅つきで交流

森田保育所

食育活動を通して子供たちの触れ合いの心を育もうと森田保育所が10月8日、森田養護学校の児童を招き餅つき会を行いました。

毎年恒例となっている餅つき会は、地元でとれた餅米を使用。園児と児童が力を合わせてきねで餅をつき、雑煮やきな粉餅にして美味しく食べました。

また、つがるちゃんが登場すると子供たちは大きな歓声を上げ、体の一部になっている農産物8品目についてのクイズなども行われ交流を楽しんでいました。



## 地域に広げよう福祉の輪

社会福祉協議会

つがるの大地に福祉の花を咲かせよう!をテーマに第4回つがる市社会福祉大会が10月11日、市民や関係者ら約400人が参加して松の館で行われました。

大会は繁田小学校児童による鼓笛パレードで幕を開け、市内6小学校代表児童が福祉の作文を披露。式典では、社会福祉発展に功績のあった34個人・16団体を表彰しました。また、アトラクションやチャリティー芸能ショーなども行われ、多くの市民らは楽しい1日を過ごしていました。



## 丹精込めて育てたリンゴを盗難から守る

リンゴの盗難防止を呼び掛けるつがる市りんごパトロール隊出動式が10月15日、市役所前で行われました。

出動式には市職員、つがる警察署員、防犯指導隊、農協関係者ら約60人が出席。つがるにしぎた農協りんご部会長でパトロール隊代表の柴谷亮さんが「関係機関が連携して、生産者が丹精込めて育てたリンゴを盗難被害から守ります」と決意表明し、特製のステッカーを張った車両で森田地区のリンゴ園地の巡回に出動しました。パトロールはふじの収穫が終わる11月中旬まで行われる予定です。



## 優良子牛の品評会

和牛改良組合

優良子牛の地域保留と畜産農家の飼育意欲・管理技術の向上を図ろうと10月21日、第5回子牛・育成雌牛品評会が屏風山牧野(富范町)で行われました。

品評会では畜産農家が一生懸命育てた子牛30頭の審査が行われ、審査員は毛並みや体高などを評価しました。

審査の結果、雌子牛の部は鳴海晴雄さん、去勢子牛の部は葛西伸廣さん、育成雌牛の部は梶浦武則さんがそれぞれチャンピオンに輝きました。

